2012年(平成24年)11月5日(月曜日)　讀賣新聞

苦難乗り越え友好誓う

せとうち 島模様 2

向島

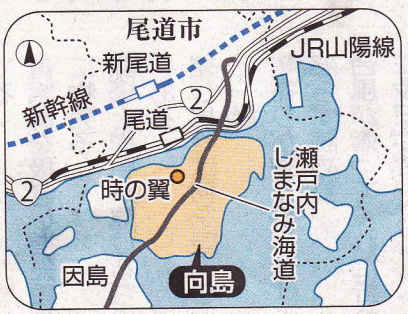
JR尾道駅の南口を出ると、尾道水道とその先の向島が真っ先に目に入る。向島は「サイクリストの聖地」と言われる瀬戸内しまなみ海道の本州側から一番最初の島だ。島への渡船では、赤や黄色など原色のウエアを着た若者たちがスポーツ用の自転車を手に笑顔をはじけさせ、太陽の光を受けた尾道水道の水面がキラキラと輝く。

明るく楽しい向島。その一方で、哀しい歴史もある。島の有志らで作る「尾道赤レンガの会」によると、戦時中、島の旧紡績工場の構内に捕虜収容所があり、ここでイギリス人捕虜23人、アメリカ人捕虜1人が死亡したという。

2002年3月、市立向島中学校の近くの公園「ミニパルコ　時」に、住民の募金などで日英友好の記念碑（白御影石製、高さ2㍍40、最大幅60㌢）が建てられた。平和と友好を表す文字が刻まれ、最上部にブロンズ製のモニュメント「時の翼」が置かれている。

死亡したイギリス人捕虜の名前を刻み、旧紡績工場の赤れんがの壁に据えた「日英友好メモリアル・プレート」の移設計画も進む。工場は取り壊されたが、会のメンバーらが旧工場の敷地の一角に赤れんがを積み、プレートを設置しようと取り組む。メンバーは「歴史的な遺産、友好の印として残したい」と言う。

公園「ミニパルコ　時」にある平和と友好を願う記念碑（尾道市・向島で）



10月、イギリス人のサム・ハリスさん(92)とケン・ペットさん(92)が訪れた。2人は向島で収容されたことはないが、北海道や台湾で捕虜を経験した。「多くの人が死んだ。しょっちゅう殴られた」「とても寒かった」などと振り返る。

時の翼を見学したケンさんは「忘れることはできない。でも私は許す」とぽつり。「捕虜の歴史がこの地にあることを、この碑によって思い出してもらえる」と最後は笑顔を見せた。

（立花宏司）